



Star ☆☆☆
EXPRESS

4月の予定

3月28日 4月度授業料引落日
(4月8日 引き落とし予備日)
3月25日(金)～3月31日(木)
そろばん春休み
4月16日 暗算検定申込締め切り
(実施は6月4日)
ユース大会特別練習
5時～7時
グランプリ大会申込締切
4月17日 全日本ユース大会

☆全日本ユース珠算選手権大会☆

2011年度の表記大会が4月17日に京都・立命館小学校で開催されます。1級合格者以上で練習で基準点に達した生徒に出場資格があります。今月の塾報にユース大会の大会チラシをはさみこんでおきます。

大会の見学は誰でもできます。警備の都合上、見学だけの場合でも事前に申し込みが必要です。見学を希望される皆さんは4月9日までに申し出てください。大会は正午開始、午後4時終了予定です。参加者は現地集合となりますが、引率を希望する場合は申し出て下さい。

3月6日西日本大会結果

星の郷総合教室の結果

団体総合競技 第1部 優勝
第2部 準優勝

個人総合競技

第1部

優勝 金本大夢
準優勝 金本三夢
3位 大内悠聖
金賞 山口愛未 大内峻聖 金本愛夢

第2部

優勝 安原章太
金賞 永井功久 桑原麻衣

第3部

金賞 田村早絵

読上算・英語読上算優勝 金本三夢

読上暗算優勝 金本大夢

3月21日近畿大会結果

大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6府県が組織する近畿珠算団体連合会主催。今年度の会場は和歌山商工会議所。小学4年生以下の部、小学5・6年生の部、中学生の部の3部門で競われる。それぞれの部門とも府県の代表選手8名が参加する。当教室からは小学4年生以下の部に5名、小学5・6年生の部に3名、中学生の部に1名が参加。

団体総合競技 大阪府チームの結果

小学4年生以下の部…優勝
小学5・6年生の部…準優勝
中学生の部…優勝

個人総合競技 当教室生の結果

◎小学4年生以下の部

優勝 金本大夢
準優勝 金本三夢
2等 大内悠聖 金本愛夢
3等 山口愛未

◎小学5・6年生の部

準優勝 桑原麻衣
3等 永井功久

◎中学生の部

3等 田村早絵

読上算 小学4年生以下の部

優勝 金本三夢
2等 金本大夢

読上暗算 小学4年生以下の部

優勝 金本大夢
2等 金本三夢
3等 金本愛夢 大内悠聖

☆桑原麻衣選手。初の満点を記録するも同点決勝で敗れ準優勝。優勝は昨年に引き続き安岡友輝選手（京都府）。☆金本三夢選手も今大会初満点を獲得。姉弟対決の同点決勝では先に挙手するも、「5」の横線がずれていてバツに。あと数ミリ正しい位置の方向に横線があれば、という後悔も後の祭り。数字も実力のうちと心得て、以後、精進すべし。

3月5日実施暗算検定

【1級合格】梅野雄太 末廣拓海

【準1級合格】濱野栞太 札埜亜衣
金子千紘 西本朱里

【2級合格】松野円紀 岡野紗里
川瀬啓寿 渋川佳南子 辻尾菜々
森岡優海 山下湧 鍵野佑登
木村梨紗子 夏見佳子 百田夏海
堀さやか 石上香菜子

【準2級合格】辻本星来 木村征爾
松下真之介 中上慶祐 矢尾良紀
木村理仁 中家千裕 笠崎萌加
古橋沙也加 木本優芽 木寺輝
関明日香 高倉知良 山ヶ城菜月
中越菜摘 福井優

【3級合格】中越菜々子 渋田誠
落合由之佑 山内優歩 今泉優衣
守本光希 井戸浩樹 井手亮太
小野澤怜花 中村彩乃 西田旭歩

【4級合格】安達菜々美 中川優花
奥田南海 津崎菜々子 谷川愛奈
西島朝香 有本華帆 野口拓海
笠崎悠佑 四宮彩花

【5級合格】若林聖和 谷岡菜々子
細川大輝 吉見優里 平野竜宇
下岡芽生

【6級合格】楠田知己 田中友子
湊結子 桑原彩衣 今井麻奈未
古橋清夏 北森遥弥

1級合格者の一言紹介

◎梅野雄太くん。2月の珠算1級合格に続き、暗算検定も1級合格。さて、いよいよ段位に挑戦、となるころなのですが3月末にタイへ転居します。抜群の暗算力はタイで驚きをもって受け止められるでしょう。

◎末廣拓海くん。コツコツとまじめに取り組んだ努力に対して当然の結果でした。お祖父様がいつもお母様におっしゃっていたという「継続は力なり」を孫の拓海くんも実践しました。

東日本巨大地震救援募金

教室に募金箱を設置しています。3月14日に設置し、14日・15日の2日間にわたって、毎時間設置した目的を話しました。

「思いを倍にして贈る」ということも伝えました。募金箱を集計して、集まった募金と同額を教室からの募金とします。かりに募金額が5万円ならば教室からも5万円を出して合計10万円にして送るという意味です。

復興には途方もない時間がかかります。お金もかかります。

今の募金箱はとりあえず4月末で一

且集計し、どこかのしかるべき機関に送ります。その後も募金箱は置いておき、適当な時期に集計しては送るということを繰り返そうと思います。

募金は強制ではありません。小さな子ども達が大きな無理をしてまで出さなくてももちろん良いのです。ただ、1つのおにぎりを4人で分けて食べなければならないような避難所の惨状を見るにつけ、たとえばおやつを5つ食べる所を4つに我慢して、残った1つ分を復興に役立てて頂こうという気持ちを持つことの大切さを訴えています。

そして気持ちを実行に移すことが時としてできる人になったり、困難に立ち向かわなければならなくなった人にそっと寄り添って勇気づけたりできる人間に子ども達が成長していくように見守ること、これも私達にできる震災復興の手助けだと思います。

被災地で肉親を失ったり家も教室もすべて流失した珠算関係者がたくさんいます。何人かから惨状を直接聞きましたが、私にはこれらの話を文字にするだけの勇気がありません。何をどう書いたところで、今回の巨大地震と津波に対して安全な場所からの論評に過ぎないという後ろめたさにも似た気持ちがぬぐえないからです。

暴走する原子力発電所をテレビで解説する「専門家」の先生方。専門家ならば、そんなところで解説していないで、早く現場でその知識と経験を生かせば良いのにと感じてしまう私は、一日も早く現場で危険な任務に直接携わっている人達がゆっくりにお茶でも飲みながら、過ぎ去った困難にいかに対峙していたかという武勇談を心ゆくまで語ってくれるテレビ放送こそ見たいと願っています。

「気」の教育

大阪の北部にある少年院。知り合いの先生が篤志面接委員として永年にわたり珠算指導をされています。その少年院ではいくつかの寮に分かれて少年達が生活をしています。

あるとき、寮対抗の珠算大会が企画されました。私は大会のお手伝い、兼、模範演技係として2回ほどお伺いしたことがあります。

大会は2月。山すそにある少年院の体育館には出場する生徒（院生）が80名ほど、大会には出ることのできない見学者（院生）も80名ほどいたでしょうか。指導教官も20名ほどはいらっしゃいました。

暖房設備のない体育館の空気はただでさえ寒さのために張り詰めています。場所が場所だけに寒さとはまた別次元の「ピン」とした空気があります。200人近くいるはずの体育館は声一つせず、衣擦れの音すらしない異様な空間です。

競技終了後、審査の時間を利用して私は講話と模範演技をしました。大きな模造紙に書いた問題を計算し、答えを太いマジックで書いていきます。段位を練習している生徒なら誰でもそうですが、暗算種目なら答えを書いている内に次の計算をはじめのものです。簡単な問題なら答えを書き終わらないうちに次の問題の計算も終わっていますから、「ただ答えを書いているだけ」という状況になります。

声を発することが禁じられているのかして誰も何も発しない時間が続いていた生徒達ですが、さすがに模範演技の時は言葉では表現できないような、驚きとも歓声とも地鳴りとも地響きとも少し違う大きなうねり声のようなものが体育館中に響きました。制止すべ

き教官とて皆同じような表情で口をポカーンと大きく開けたままでした。

珠算式暗算の実際をご存じない方々には、紙も鉛筆もそろばんも必要とせず、直ちに答を案出できる珠算式暗算は驚きに値すると思います。ただ、少しでも珠算学習をかじった人ならば、できるかできないかはともかくとして、珠算式暗算の可能性と威力を理解なさることだと思います。

横道にそれてしまいました。

ここで書きたいのは、先に挙げた体育館の『空気』の存在です。また、その『空気』のもつ威力と魔力です。

最初、私は、今後いくらどんな悪事を働いたとしても年齢的に絶対にお世話になることのできない少年院というものに興味津々でした。テレビの特番でしか見たことのない世界です。何一つ見逃してやるものかという気持ちで臨みました。

市内の喧噪を抜け、車で少し走ると、いきなり人家が途絶えます。それから走ること数分、人目を避けるようにしてそれは建っていました。

玄関の扉は開いておりましたが、玄関を一步入るとそこから先は二重三重の『鍵』の世界です。扉という扉に鍵が付いており、窓にはすべて鉄柵がはめられています。

応接間に通された私達がお茶を口に運ぶ間、遠いところから聞こえてくるのは「イチッ、ニッ、サンッ、シッ」という点呼の声です。「イチ、ニ、サン、シ」ではなく「イチッ、ニッ、サンッ、シッ」なのです。

「イチッ、イチッ、イッチニッ」という号令とともに足音も聞こえてきます。部屋ごとに体育館へ移動しているのでしょうか。号令に混じって「ザッ、ザッ、……」と乱れのない整列した

足音でした。

トイレに行こうとして接待係の教官に場所を聞きましたら、「ご案内致します」とのこと。場所さえ教えてもらえればもう十分一人でトイレに行ける年頃だった私は固辞したのですが、トイレには行けても入ることができないことに気づくのに時間はかかりませんでした。そうです。トイレにも外から鍵が二重に付いていたのでした。

いよいよ大会の時間。ここで冒頭に触れたところに戻るわけですが、体育館に入場する接待係の教官と篤志面接委員の先生と私の3人に院生全員が声をそろえて「おはようございます」の大音声で迎えてくれます。今まで聞いたことのない大音声です。元気盛りの若者達が腹の底から大声を出し、しかもそれが一つになっているのですから、まるで、『雷鳴』です。

大声の後の静寂。問題を受け取るたびに、イスから立ち上がり「ありがとうございます」とお辞儀をする院生たち。危険防止のために文鎮は使えず、手で押さえながら懸命に取り組みます。緊張のためか手がブルブルと震えていてまともに計算できない院生や、極度の緊張のため、計算方法を忘れてしまった茫然自失の院生も。小声で指導しているこちらの意図を顧みず、これまたイスから立ち上がり、大声で「ありがとうございます」。

大会に出ない院生は、少しでも近くで指さばきを見ようと皆、許される範囲で最大限上半身をかがめています。表情には、心の中で自察の仲間を応援するのがありありと見て取れます。

少年院というものに興味津々だった私は、いつしか少年達の作り出す『空気』に明らかに感化され、同化し、一先生と一生徒という関係になっている

のでした。

社会でかなりの極悪非道な所業のすえにたどり着いた少年院。しかし、そこは、わずかな時間で、世間の『空気』を体の中から一掃するほどの迫力と気迫に満ちた空気に包まれていました。

さて、これほどまで強烈ではないにしろ、家には家の、学校には学校の、会社には会社の、地域には地域の、国には国の、それぞれの空気があります。これらは、家風、校風、社風、地域性、国柄などの言葉で表現されています。長い間の営みで作上げられてきたこれらの空気は、すなわち『文化』です。私達の日々の小さな営みは、文化を創り、文化をつないでいくことに他なりません。

どこの場所にも、その場所特有の『空気』がありますが、これは一朝一夕でできるものではありません。日々のぶれない信念と、その信念を貫く行動規範にしたがった実践が必要です。

少年院に送られてくるほどの人間でも感じ取ることのできる『空気』。空気を感じ取る能力は誰にでも備わっていると考えるのも良いと思います。もちろん「K・Y」、すなわち「空気が読めない」と揶揄されるように表面的な空気が読めない人はいますが、これは学習をすることで改善されていきます。

問題は、子どもに迎合するあまり、あるいは自己の享楽だけを求めるあまり、空気を作らない、あるいは空気を作る努力をしていないという大人や社会の増加にあるような気がします。さらには、商業ベースに乗れば何でもご

ざれというマスコミが、この傾向に追い打ちをかけています。

いきなりの雨。通学途中の子どもが雨に打たれているかもしれない。心配でたまらない保護者が相手先に連絡を入れる。「子どもが濡れているので服を着替えさせて下さい。」

濡れ方が尋常でなければ誰だって対処をするので相手方に任せておけば良いものを、我慢ができません。こんな環境で育てられた子どもは、「雨に濡れたら誰かが拭いてくれて着替えをさせてくれるもの」だと思ってしまうでしょう。そしてそれが子どもとして当然の権利だとも思ってしまうでしょう。そこには、他人に対する感謝の気持ちはないでしょう。

「心配するのが親心」で、誰だって心配しますが、生まれただの子犬ですら、雨に濡れたら全身をブルブルッと震わせて水を切る術など知っています。

出席時間20時間以上の生徒

(3月20日までの1ヶ月)

金本愛夢47 谷岡菜々子40 窪田一誠
38 山口愛未38 楓陸37 金本三夢36
桑原彩衣36 金本大夢35 桑原麻衣
35 濱野恵太35 桑原唯衣34 楓まい
34 落合将平32 奥田南海32 永井功
久31 百田夏海30 湊結子30 奥田あ
さひ29 竹下柊希29 西村梨留29 中
越菜々子28 酒井克巳26 長尾侑美26
西島朝香26 安原章太26 大内悠聖
25 梶原太智25 酒井結衣24 盛井元
仁24 大内峻聖23 足立歩大23 竹下
椋香23 蜂谷圭将23 福田陸人23 文
沢一花23 文沢駿介23 落合由之佑22
江良尚泰22 山根建太朗22 北村樹
21 木村理仁21 楠田知己21 北村彩
21 久保田莉央21 熊田星麗21 古川

和佳21 松下綾乃21 森岡賢一21 山内星徳21 小北智也20 田伐志帆20 森岡優海20 山内優歩20

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒)

足立歩大115 梶原太智92 文沢一花83 文沢駿介80 村上小夏54 井手蒼人44 平井望彩44 明浦日香43 眞井夏希41 山内美空35 今井翔太34 池崎佑磨32 野口陸人32 佐藤日奈子31 北森彩月29 高橋恵太29 吉永灯28 伊藤優生26 佐藤菜南子26 三屋龍義25 前田小春24 西本堅信23 実生碧23 西本直幸21 本間響21 光野涼有20

猛スピードばく進中(瞬達)

(初歩教材「瞬達」を1ヶ月で5ページ以上進んだ生徒)

楓まい24 熊田星麗15 石田優麻14 西本匠吾14 岡田洸11 藤岡碧海11 岡田遥10 中越菜々子10 吉田魁馬9 西村梨留8 湊結子8 池田菜乃子7 木村理仁5 橋本潤司5

※今月は暗算検定の練習と、「J1」という練習に多くの時間を割いたため、初歩教材の進みは遅くなっています。「J1」は、初歩の加減を学習し終えたばかりの生徒向け練習でしたが、3月5日の暗算検定後、全員で取り組んでいます。

それは、この練習を経て暗算検定にチャレンジした生徒達の暗算力と、この練習を未実施だった頃に暗算検定を受験し始めた生徒達との暗算力とに差があることが、暗算検定の成績で如実に現れてきたからです。

もちろん暗算検定の1級や準1級を受験した生徒達は、わずか数回のJ1練習で卒業できています。

フラッシュ暗算合格者

(3月20日までの1ヶ月間)

初段 奥田あさひ 末廣拓海
山本紗利那 山下湧
1級 木村梨紗子 中越菜摘
村上凌太郎

2級 岡留彩花 楠田知己 楓まい
西村梨留 藤岡碧海 百田夏海

3級 西村梨留 久保田莉央 楓陸
橋本潤司 森岡賢一 山内優歩
吉田魁馬

4級 西村梨留 飯田海地

5級 飯田海地

6級 越野貴也 川崎龍一 増永優貴

7級 越野貴也 中野楽

8級 若林日和

9級 竹下椋香 古橋晴香

10級 黒木康平 中津裕貴

書道教室から～加藤真月

毎年ですと、この時期、新学年に向け、心晴れやかになる季節ですが、今年は東北地方の大震災でとても暗い気持ちになってしまいます。私ができることといえば、募金することや、エネルギーの無駄遣いをしないようにすることぐらいしかありませんが、一人ひとりが立ち上がり復興に向け歩んでいけたらと思います。

遅くなりましたが、書初めコンクールの賞状が送られてきました。すでに個々に賞状と景品をお渡ししましたが、賞についての説明をしていませんでしたので、ここで説明させていただきます。最優秀賞、日書研賞はいません。特選が2人(金本大夢くん、黒田幸花ちゃん)、準特選が1人(蜂谷圭将くん)、秀作が3人(市川未悠ちゃん、山下彩乃ちゃん、黒田佳花ちゃん)、佳作が2人(吉富千夏ちゃん、金本三夢ちゃん)です。

同じ時期に出品した成田山書道展は

4月末に発表があります。読売新聞の方は4月半ばに紙面で発表されます。わかり次第報告いたします。

さて、4月号では、5月10日締め切りの硬筆1級以上の昇段試験があります。ちなみに次回は11月号です。毛筆は5月号・11月号です。学年が変わり、文章量が増える学年があります。硬筆では新2年、新3年、新5年です。お手数ですが、硬筆1級以上の方は硬筆試験代（本部入金）の400円をご持参ください。

新学年で子供たちは新鮮な気持ちで過ごしていくことと思います。子供たちを見守るわたしたち大人も子供達に対する気持ちの持ちようを新たにしたいものです。以前にもお伝えしたかと思いますが、算数教室をされている有名な宮本哲也さんの新聞記事（2007年の古い記事ですが、私にとって心に響く言葉が書いてあったので珍しく切り取っておいておいた記事です）をご紹介します。以下、新聞記事です。

「ゆとり教育」でも「つめこみ教育」でもなく、「見守る教育」を試してみよう。

「ゆとり教育」も「つめこみ教育」も「子供をいかに伸ばすか」という発想は同じですが、これがそもそもの間違いで「人が人を伸ばすことなどできない」というのが今のところの私の結論です。完成された人間である大人の自分が、未完成の人間である子供を自分のレベルまで引き上げようという考えは間違いであり、傲慢以外の何物でもありません。確かに大人は知識と経験においては子供よりも一日の長がありますが、人間としての未熟さという点では大差ありません。

学べば学ぶほど世界の広さ、そして自分の未熟さを思い知らされますよ

ね。私たち大人にできることは子供が伸びる適切な環境と材料を提供してただ見守ることだけです。

学力とは、いい学校にはいるために必要なのではなく、よりよく生きていくために必要なのです。生命力と言い換えてもいいでしょう。

私が子供達に望むことは、1つの問題に対して10分間、集中して頭を使い続ける姿勢を身につけるということだけです。わからなくても、解けなくてもひたすら考える、これこそが学問の王道です。

結果を求めることをあせるとすべてが壊れます。解けた問題の数だけ学力が上がるわけではありません。頭を使った分だけ賢くなるのです。努力の見返りは結果ではなく、成長だと考えればどんな難問に出会っても怯むことがなくなるでしょう。こういう話をする、「では伸びない子はどうすればいいのでしょうか」という質問が必ず出ますが、そういうことは、できない子が自分の頭で真剣に悩まないと何も進展できません。

私自身、子供の頃勉強ができませんでした。「こんなに何もできなくてどうやって生きていくのかなあ」とぼんやり悩んでいましたが、中学2年のとき、「得意なものが何もないけど、それでも一番可能性があるのは勉強だろうな」という結論に達しました。できない子に手を差し伸べるのは大人の自己満足だけで、その子の自立、自覚を遅らせるだけです。

また、学力を身につけることを生活の最優先にははいけません。生活の基盤は睡眠、食事、運動におくべきで、学習は4番目と考えましょう。

子供と接する大人の中には「子供は放っておくと怠けるから無理にでも勉

強をさせないといけない」と考えている人が多いと思いますが、強要されることを嫌うのは大人も子供も変わりません。環境と材料を提供してじっと見守りましょう。「ゆとり教育」でも「つめこみ教育」でもない第三の教育「見守る教育」を試してみませんか。

ただ、ひとつで注意いただきたい点があります。「見守る教育」を「見張る教育」にしてしまうと、子供は絶対についてきません。冷たい目で見張るのではなく、温かい目で見守りましょう。きっと今よりはうまくいくはずですよ。

「見守る教育」は「強い子に育てる教育」でもあります。大人の「信じて待つ」という姿勢も問われます。

以上が、宮本哲也さんのご意見です。ひとつの意見として参考になればと思います。進学年度もよろしくお願い致します。

4月号の段位は下記の通りです。

・新小1	毛筆	硬筆
小西 美琴	8級	6級
市川 大誠	8級	6級
・新小2		
角南 佳祐	6級	3級
・新小3		
今井 麻奈未	2段C	2段B
加藤 大騎	初段	2段B
沼田 賢志郎	9級	2級
東 美玖	初段B	1級A
土橋 乙心	4級	1級A
小西 真雪	7級	2級
松下 菜々	5級	3級
九十九 光希	5級	2級
中村 優吹	7級	5級
・新小4		
蜂谷 圭将	4段B	5段A
辻尾 菜々	2段B	4段A
金本 大夢	3段A	3段B

上野 舞華	3段C	3段C
沼田 創史郎	4級	1級B
中西 佑輔	3級	初段B
松下 真之介	5級	3級
尾碕 初菜	4級	3級
西本 朱里	6級	6級

・新小5		
市川 未悠	3段B	3段B
金本 三夢	3段C	2段C
吉富 千夏	2段B	4段B
大槻 遥香	初段C	1級B
岸本 健志	1級C	初段B
山下 彩乃	2段B	初段A
東 優里	初段	初段B
園田 有咲	1級A	1級B
山口 愛未	1級	1級A
桑原 唯衣	6級	5級

・新小6		
上野 豪斗	初段	3段B
藤原 弥咲	3段B	3段A
木村 美佑	2段B	初段A
中井 美咲	2段C	5段C
黒田 佳花	2段	2段A
黒田 幸花	2段	2段A
園田 沙耶香	1級	1級A
寺西 匠人	6級	3級

◎最近この塾報でよく話題に上る小学館発行の月刊誌『edu』。今発売中の5月号でも珠算式暗算を使った筆算の計算例やそろばんを使った時間の計算方法などを紹介しています。また別のコーナーでは、当教室生の蜂谷圭将くん（妙見坂小新4年）も登場しています。表紙の右上には私の写真も小さく出ています。書店でお目にかかりましょう。

◎いよいよ当教室の塾報をネットで公開することとなりました。4月中には閲覧できるようになると思います。検索は「そろばんtips」で。